

めぐみイエス・キリスト教会

2024年5月12日(日)第二主日礼拝

午前10時より

週報「通算第706号」



2024年標題聖句

マタイの福音書第6章33節

《まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌251「主イエスの御側に」 p. 388

【交読文】 No.42 詩篇第130篇 p. 912

【賛美Ⅱ】 新聖歌428「キリストには代えられません」p. 690

【使徒信条】

【主の祈り】

【前回説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.1「今も愛します主イエスを」

【聖書朗読】 ルカの福音書5章8節～11節

【礼拝説教】 《すべてを捨てて》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(ルカの福音書5章8節～11節)

5:8 これを見たシモン・ペテロは、イエスの足もとにひれ伏して言った。「主よ、私から離れて下さい。私は罪深い人間ですから。」

5:9 彼も、一緒にいた者たちもみな、自分たちが捕った魚のことで驚いたのであった。

5:10 シモンの仲間の、ゼベダイの子ヤコブやヨハネも同じであった。イエスはシモンに言われた。「恐れることはない。今から後、あなたは人間を捕るようになるのです。」

5:11 彼らは舟を陸に着けると、すべてを捨ててイエスに従った。

●ポイント1.「大漁」の出来事とは？

※ルカの福音書5章4節～7節「ペテロの答え(先生)」(新約p.117下段)

5:4 話が終わるとシモンに言われた。「深みに漕ぎ出し、網を下ろして魚を捕りなさい。」

5:5 すると、シモンが答えた。「先生。私たちは夜通し働きましたが、何一つ捕れませんでした。でも、お言葉ですので、網を下ろしてみましょ。」

5:6 そして、そのとおりにすると、おびただしい数の魚が入り、網が破れそうになった。

5:7 そこで別の舟にいた仲間の者たちに、助けに来てくれるよう合図した。彼らがやって来て、魚を二艘の舟いっばいに引き上げたところ、両方とも沈みそうになった。

●ポイント2.「主よ。私から離れて下さい。私は罪深い人間」とは？

※イザヤ書57章15節「イザヤへの神様の言葉」 (旧約p.1265上段)

57:15 いと高くあがめられ、永遠の住まいに住み、その名が聖である方が、こう仰せられる。「わたしは、高く聖なる所に住み、砕かれた人、へりくだった人とともに住む。へりくだった人たちの霊を生かし、砕かれた人たちの心を生かすためである。

※第 I ペテロ5章5節～6節「シモン・ペテロの勧め」(新約p.471下段)

5:5 同じように、若い人たちよ、長老たちに従いなさい。みな互いに謙遜を身に着けなさい。「神は高ぶる者には敵対し、へりくだった者には恵みを与えられる」のです。

5:6 ですから、あなたがたは神の力強い御手の下にへりくだりなさい。神は、ちょうど良い時に、あなたがたを高く上げてくださいます。

●ポイント3.「すべてを捨てて従った」こととは？

※マタイの福音書19章27節～29節「主イエスの約束」(新約p.40上段)

◎先週の礼拝メッセージ【大漁から学ぶこと】

《主イエスは、ガリラヤ全域にわたって、町や村にあるユダヤの会堂で、安息日ごとに教え、病をいやされ、悪霊を追い出されたのです。しかし、シモン・ペテロの家には、必ず戻って来られました。

さて、主イエスは一人でおられました。すると、群衆が神の言葉を聞こうと差し迫って来た為、主はガリラヤ湖の岸边に来られたのです。そして、シモンの舟に乗り、陸から少し漕ぎ出すように言われ、腰を下ろし、群衆を教え始めました。お話が終わりますと、主はシモンに言われます。「深みに漕ぎ出し、網を下ろして魚を捕りなさい。」と。「先生。私たちは夜通し働きましたが、何一つ捕れませんでした。でも、お言葉ですので、網を下ろしてみましよう。」

すると、おびただしい数の魚が入り、網が破れそうになったのです。そこで別の舟にいた仲間の者に助けを求め、彼らと共に、魚を二艘の舟一杯に引き上げたところ、両方とも沈みそうになったのです。

これは、シモンの家族の為でもあるのです。主イエスは、シモンの家を「自分の家」と呼び、ガリラヤ伝道の宣教基地として、用いておられました。それゆえ、カペナウムに戻って来るたびごとに、主と弟子たちは、シモンの家に宿泊し、姑の手厚い持てなしを受けたのです。

しかし、手厚い持てなしをし続けるには、やはり、先立つ物が必要なことは言うまでもありません。それが今回の大漁の魚なのです。

さらに、もう一つの意味は、この時点から約三年半年後の出来事の付箋になっていることです。その時には、153匹の魚がかかります。

主イエスは、弟子たちと彼らの家族のことも、心に掛けておられます。主は、『「何を食べようか、何を飲もうか、何を着ようかと言って、心配しなくてよいのです。まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。」』と、弟子たちに約束されました。そして、私たちにも約束されているのです。》

お知らせ

※次回は5月19日(日)は午前10時から、通常通りに行ないます。